

25 テッポウエビ

(テッポウエビ科)

兵庫県ランク:C

Alpheus brevicristatus

環境省ランク:指定なし

種の概要

北海道忍路湾以南に分布する。体長70mm程度に成長し、潮間帯で見られるテッポウエビ類のうちでは最も大型になる。体色は緑褐色で、明瞭な縞模様などはない。砂質から砂泥質の干潟や浅海域に穴居するが、比較的活発に巣穴外を出歩く。本種はスジハゼ類と共生することが示唆されている。雌雄ともにハサミ脚は片方が特殊化し、これを勢いよく閉じることで水鉄砲のように前方に水を噴射するとともに大きな音を出す。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
	△			○			

県内分布

西宮市、高砂市、姫路市、たつの市、洲本市

県内における生息状況及びその他特記事項

ランク変更なし。本種は波静かな砂質もしくは砂泥底の海岸を好む。県内では播磨東部から西部、淡路島中部で記録があったが、近年、甲子園浜や西宮浜など、阪神地域でも確認された。阪神地域に残されたこれらの海岸線は大阪湾奥部における数少ない自然・半自然の海岸線であるため、多様な種の保全上極めて重要な場所であると言える。

保護上の留意点

本種の生存にかかわる脅威としては埋め立て、付近の海岸線の改変に伴う潮流の悪化や排水流入による水質汚染が考えられる。砂泥質の潮間帯は県内において減少傾向にあるため、それらの生息環境を維持してゆくことが本種の保護につながる。



写真提供：西宮市貝類館



写真提供：西宮市貝類館

【執筆者】 渡部哲也